

入札監理小委員会における審議の結果報告

在日外交官日本語研修事業 実施要項

（独）国際交流基金「関西国際センター」の行う「在日外交官日本語研修」について民間競争入札を実施する旨、公共サービス基本方針別表に定められている。

これに基づいて同基金より提出された実施要項（案）を入札監理小委員会において審議したので、その結果（主な論点と対応）を以下のとおり報告する。

1．クラス編成の方式・委託金額の決定方法（実施要項 2 頁）

【論点】

クラス編成の方式はどうあるべきか。クラス数を固定するべきか。

【対応】

下記の理由により、入札時点でクラス数をあらかじめ「4 クラス」と固定した上で、レベル分けテストの上位者から順にクラスを編成することとした。

- （ア）5 クラス以上のクラス編成とした場合には、落札額が予算額の範囲を超えてしまう可能性が高い。
- （イ）クラス数を固定しない場合には、クラス数が増加した場合に追加費用を基金が負担すべきであるが、そのような臨時の出費は、予算執行上困難である。
- （ウ）「クラス単価」という変則的な方法をとることは実務的に困難である。

2．プレースメントテスト・クラス分け（実施要項 3 頁）

【論点】

「実は日本語のできる者（例えば、日本語検定 3 級の者）が下のレベルのクラス（例えば、日本語検定 4 級のクラス）に分類されていた」ということのないように、プレースメントテストやクラス分けはしっかりやっておくべきではないか。

【対応】

基金が、プレースメントテストの内容及びその結果並びにクラス分けの状況が研修終了時に日本語能力の向上（カリキュラムの習熟度）を測定するために適切なものになっているのかについて確認を行い、不適切と判断する場合にはクラス分けの修正を求める、こととした。

3．サービスの質（要求水準）（実施要項4頁）

【論点】

サービスの質について、「カリキュラムの習熟度70%以上の日本語能力の向上」が求められているが、具体的にどうやって測定するのか。

【対応】

国際交流基金においては、例えば、カリキュラムの内容に応じて三つ程度のタスクを設定し、各タスクについて、50%から100%の間で達成度を5段階評価し、その平均をとる方法を考えているが、具体的には、民間事業者と協議の上、決定されることを確認した。

4．インセンティブ

【論点】

インセンティブがあった方がよいのではないか。

【対応】

以下の諸点を考慮して、本研修においては、インセンティブの設定は行わないこととした。

- （ア）募集の段階で、なるべく優秀な学生のみを集めようという方向での募集が行われる恐れがある
- （イ）予算上の制約
- （ウ）達成度合いに併せて適正な金額を設定することが困難

5．情報開示（実施要項別紙）

【論点】

参考として「在日既習者向け短期ブラッシュアップ研修」の情報を掲げることは適切か。

【対応】

在日外交官日本語研修事業の実施経験がない中で、最大限参考になる情報として開示するものであるので当該情報開示は適切と考える。